



第74回大会 TEAM FUKUOKA NEWS



福岡県選手団サポートニュース H31.2.17(日) Vol.3

成年男子が支える福岡のスキー競技

ジャイアントスラローム2日目、成年男子C（34歳以上）

久家和行選手（（有）高治工務店）、山道正明選手（株）H.A.L.、本山孝祐選手（岩谷産業（株））が、出場。中でも本山選手のレース後半の滑りは印象的だった。

自らを震い立たせるように「こらえろ！こらえろ！」と叫びながらの滑走。現在44歳、痛めていた足が治った直後の今大会。

レース後、「年齢的にも、続けることが大変。競技者としてもっと上を目指すのは厳しいかも。しかし、同じ競技をやっている娘と一緒に県代表として国体に出場するのが目標。そのためにも、まだまだやめられない。」と微笑んだ。

結果は、3名ともに得点に絡むことはなかったが、県代表の成年選手として、この後ろ姿を次世代に見せ続ける姿勢や想いが、きっと未来のTEAM FUKUOKAの更なる発展に繋がるだろう。

ジュニアアスリートの活躍

全出場選手の4分の1の選手が記録なし。ティネの壁に阻まれた少年女子。そんな中、高名まや（筑紫女学園高校1年）は、見事に目標を果たした。初めての県代表としての出場で、かなり緊張した状態でのレース。-12°Cの気温の中、ひたすらスタートを待つ姿からアスリートとしての強さを感じた。スタート後、序盤でのミスはあったが、33°の斜度を精一杯の力で滑り降り、完走。レースの緊張感から解放された笑顔はあったが、課題は残ると彼女は語った。「国体は学校、競技団体、家族と感謝を感じる大会。これからも弱点である足腰のトレーニングを続け、来年は成長した姿を見せたい。」

最初から最後まで「感謝」の言葉を口にした彼女。来年こそ本物の笑顔を見てくれるはずだ。

スキー選手団の団結力

本大会で活躍したのは選手だけではないことは言うまでもない。早朝から選手とともに競技場へ足を運び、最善の作戦をアドバイスする監督達。選手が全力で競技に取り組めるのもスタッフの想いがあってこそだ。ゴール地点にて笑顔で選手を迎えるその顔に、選手の顔も綻んだ。小川監督は今後についてこう語った。「県としてもまだまだ実力をつけていかなければならない。来年は新たな選手を迎えてTEAM FUKUOKAとして一致団結して戦う。」今回のレースを終え、監督として結果には満足していない。しかし、九州・福岡の地からスキー競技の強さを証明しようといった県スキー連盟の団結力に今後も期待が膨らむ。



【山道選手と本山選手（121番）】



【高名選手の渾身の滑り】



【青柳会長（総監督）をはじめとするスタッフ】

HP「ふくおかスポーツネット」でもニュースレターを配信しております。ぜひご覧ください。

作成者：福岡県選手強化推進実行委員会事務局〔福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課〕

TEL：092-643-3924

